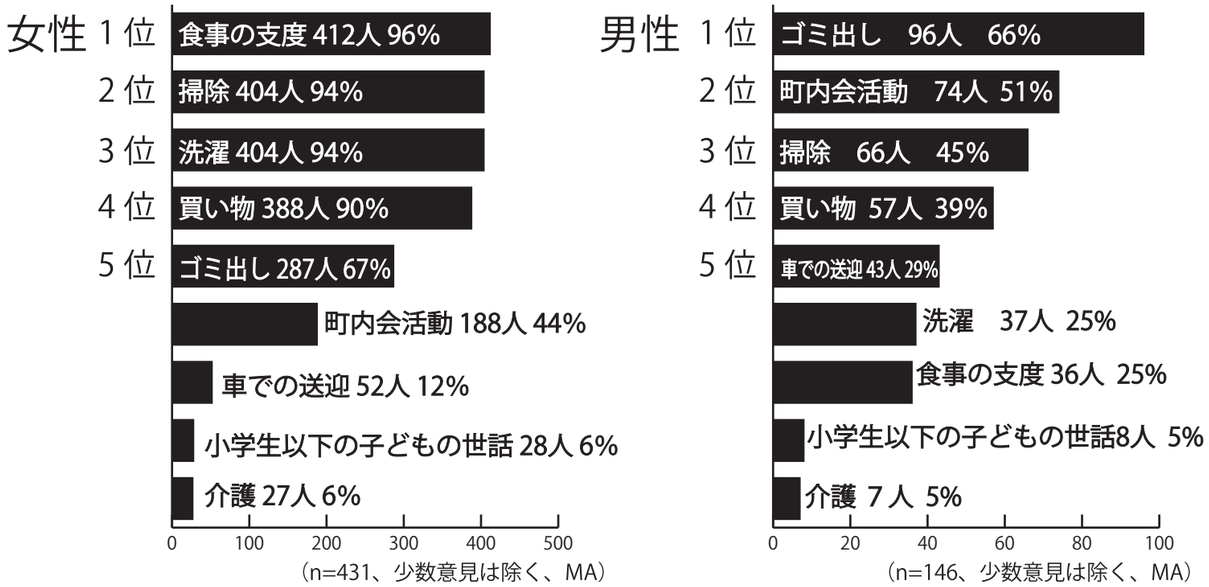
高齢者の家庭内無償労働（1）

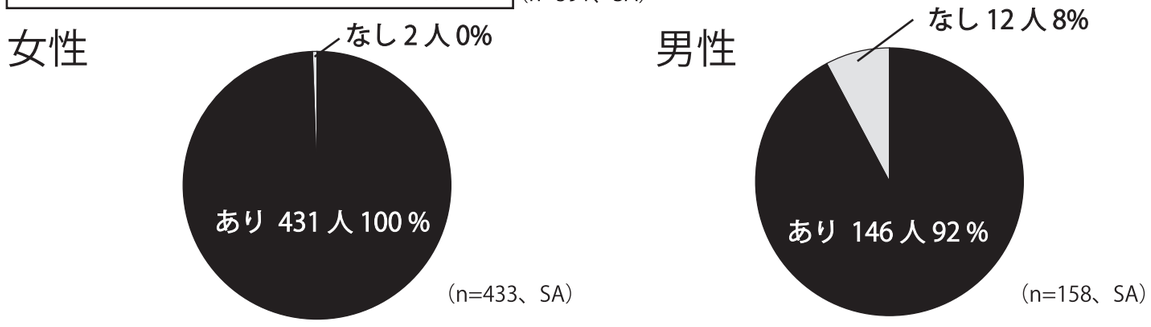
高齢者の家庭内労働の役割ベスト５（Q５-1）

（n=577、少数意見は除く、MA）
※複数回答可



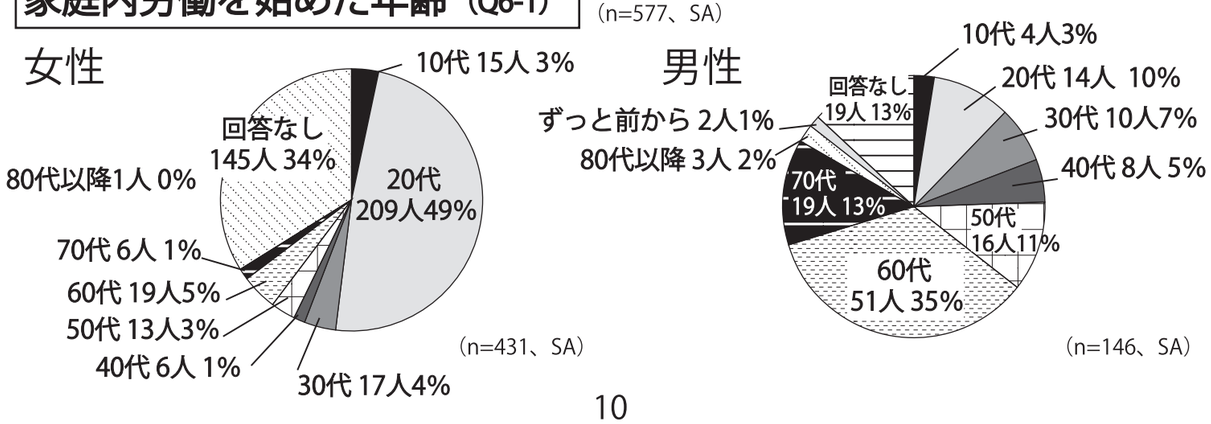
家庭内労働役割の有無（Q5-2）

（n=591、SA）



家庭内労働を始めた年齢（Q6-1）

（n=577、SA）



家庭内労働をしない理由（Q8）

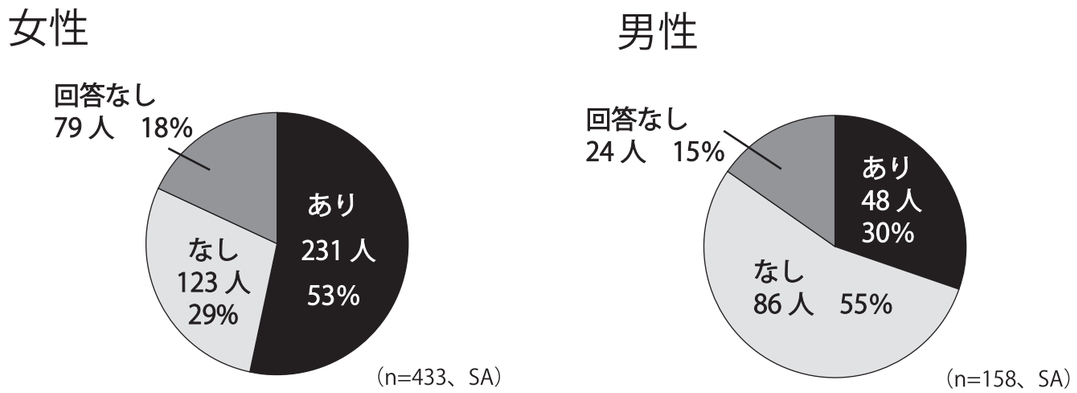
（n=14、MA）※複数回答可

女性　家事をやる必要がないから　２人

男性　家事をやる必要がないから　５人
若い頃から配偶者や同居女性がやってきたから　５人
家事は嫌いだから　１人
家事の必要がある時だけやる　１人
回答なし　１人

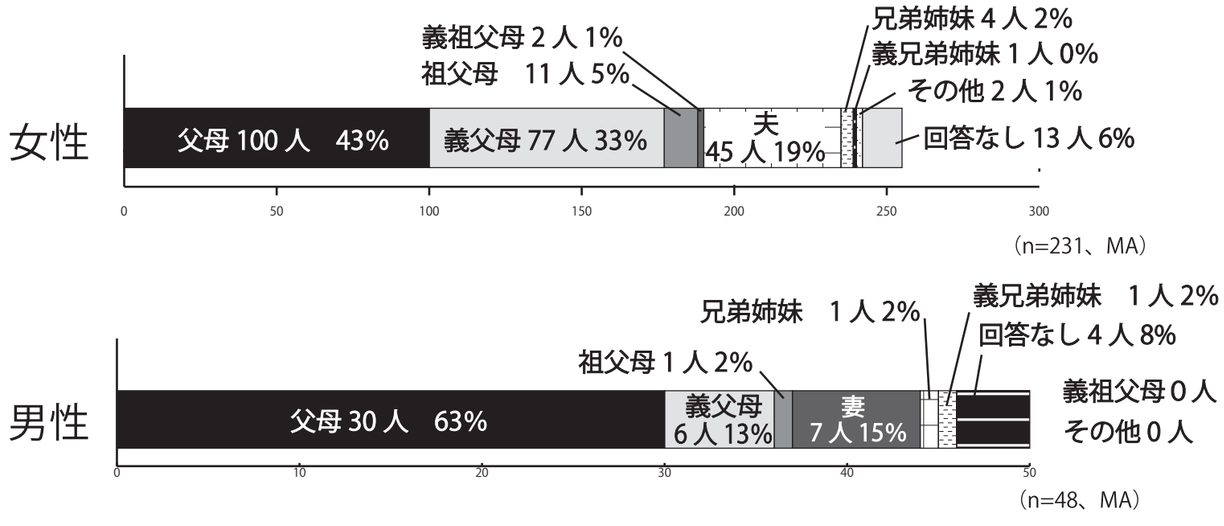
介護経験の有無（Q７-1）

（n=591、SA）



誰を介護したか（Q７-2）

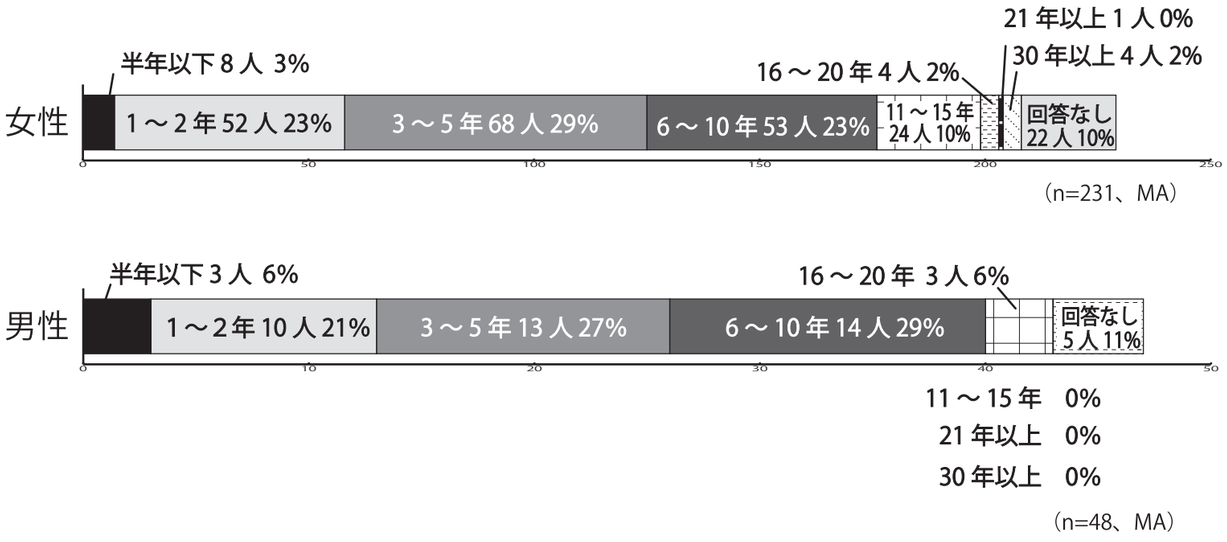
（n=279、MA）※複数回答可



高齢者の家庭内無償労働（2）

何年介護をしたか（Q7-3）

（n=279、MA）※複数回答可



「高齢者の家庭内無償労働」についての概要

本調査を行うにあたり、あざれあ交流会議が是非とも調査したい項目が「高齢者が日常行う無償労働」であった。対価報酬のない無償労働の主たるものは家庭内労働である。家庭内労働には家事、育児、介護、町内会活動など、様々な労働がある。これまで、これらの無償労働を担うのは、仕事で忙しい男性に代わり、家にいる女性や高齢者であった。そこで、家庭内の家事、介護を男性と女性のどちらが主に担っているかを調査し、性別役割が生み出す男女の家庭内の労働格差について、男女共同参画の視点から明らかにした。

●家庭内労働役割の有無（Q5-2）について、女性のほぼ 100%（431 人）が家庭内に労働役割があり、無いとする人は2人であった。一方、男性も 92%（146 人）が家庭内に労働役割を持つ。全く無いとする男性は 8%（12 人）であった。

●高齢者の家庭内労働役割（Q5-1）の中身を見てみよう。女性役割のベスト 5 は、1. 食事の支度 2. 掃除 3. 洗濯 4. 買い物 5. ゴミ出しの順である。この内、ゴミ出し以外は 90% 以上の女性が行ない、特に「食事の支度」については、96% の女性が行っている。一方、男性役割のベスト 5 は、1. ゴミ出し 2. 町内会活動 3. 掃除 4. 買い物 5. 車での送迎の順である。食事の支度をする男性はわずか 25% であった。つまり、高齢男性の多くが生きてゆく上で最も必要な食事の支度を女性任せにする実態が浮かび上がった。圧倒的に女性に偏重する家庭内労働の内、男性が自分の役割として、積極的に参画するのが「ゴミ出し」と「町内会活動」である。また、わずかではあるが家族ケア役割として、「小学生以下の子どもの世話」と「介護」に共同参画する男性の存在（各 5%）も明らかとなった。

●家庭内労働をはじめた年齢（Q6-1）は、49% の女性が 20 代から始めたのに対し、男性は 50 代 11%、60 代 35%、70 代 13% と、その多くは退職を迎え、時間に余裕ができてから始めている。一方で、20 代 10%、30 代 7% と、若い時から家事分担する男性もいる。

●家庭内労働をしない理由（Q8）について、複数回答の内、「家事は嫌いだから」とする男性はわずか 1 人であった。「家事をやる必要がないから」は、女性 2 人、男性 5 人であった。「若い頃から配偶者や同居女性がやってきたから」は男性 5 人。つまり、家庭内で男性が家事分担をする習慣の有無は、「家事は女性だけがやるものではなく、性別に関係なく行う」とする男女共同参画の考え方を男性だけでなく、女性も共有できるかどうかで決まることが改めて実証される結果となった。

図表 1 は、2020 年に OECD が 15 ～ 64 歳の男女を対象に行った「男女別に見た 1 日当たりの生活時間の国際比較」[3]（内閣府男女共同参画局作成）である。有償労働時間を男女比（女性を 1 とした場合の男性の倍率）で見ると、男女比が大きいのは日本とイタリアで 1.7 倍である。一方、無償労働時間の男女比（男性を 1 とした場合の女性の比率）を見ると、日本の女性は男性の 5.5 倍。韓国では 4.4 倍。イタリアでは 2.3 倍である。日本は男女ともに有償労働時間が長いだけでなく、男性の有償労働時間が極端に長いため、無償労働が女性に偏る傾向が特に強いことが分かる。日本の男性は現役時代、家事・育児・介護などを女性に任せてきた。その結果、退職後もそのまま家事労働役割が女性に継承されていることが分かる。高齢世代における男女共同参画は、家庭内の無償労働の役割分担をまず見直すことから始める必要がありそうだ。家庭内無償労働のもう一つの柱は、介護である。

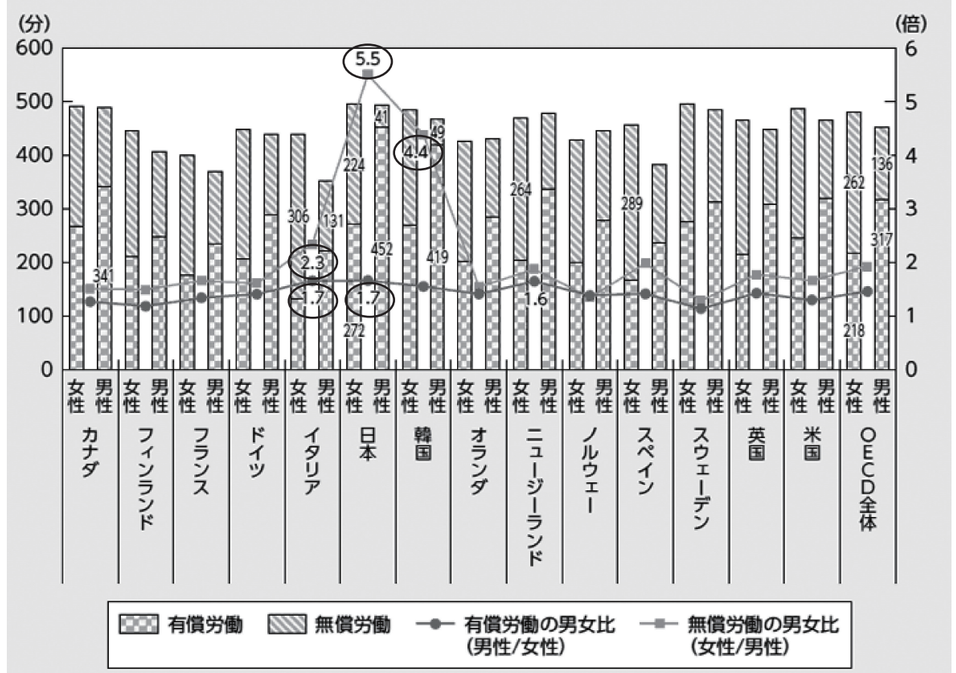
●介護経験の有無（Q7-1）について「介護経験あり」の女性は 53%。「介護経験なし」29% に「回答なし」18% を含めると、47% の女性が介護をしていない。一方、男性は「介護経験あり」が 30%。「介護経験なし」55% に「回答なし」15% を含めると、70% の男性が介護を行なった経験がないという結果となった。

●誰を介護したか（Q7-2）については、女性は父母 43%、義父母 33%、夫 19%、祖父母 5%、義祖父母 1%と、婚家先の義父母を含む、広範な近親者の介護を複数回担っている。一方、男性は、父母 63% が圧倒的に多く、妻 15%、義父母 13%、祖父母 2%、兄弟姉妹 2%と、二親等内の近親者の介護を担うケースが多い。

●何年介護をしたか（Q7-3）については、女性は 3-5 年 29% が一番多く、次に 1-2 年 23%、6-10 年 23% と続く。男性は 6-10 年 29% が一番多く、20 年近く介護された方も 6% いるなど、長期間介護が多い。

平成 12 年（2000）に介護保険制度が導入され、高齢者介護は家庭内介護から社会全体で支え合う仕組みへと移行すると考えられてきた。しかし、本調査をみる限り、男女合わせて回答者の 47%が家庭内で介護を担っていることが明らかとなった。

図表 1　男女別に見た生活時間（週全体平均）（1 日当たり，国際比較）



（備考）1．OECD`Balancing paid work, unpaid work and leisure（2020）をもとに，内閣府男女共同参画局にて作成。